

萬朝報

「萬朝報」は「簡単・明瞭・痛快」を柱に据え、社会悪に対しては徹底的に迫するという姿勢を貫きました。数々の暴露キャンペーンを掲載し、大衆の人気を集めた手腕は特筆されます。『鉄仮面』『巖窟王』『噫無情』などの連載翻案探偵小説の人気にも支えられて「萬朝報」は発展しました。

しかし、基本4ページだったため、狭い紙面との格闘が続きます。1892年の創刊当初は1ページ5段組み。翌年3月に6段に、同11月には7段に拡張。1904(明治37)年3月になると9段組みにしました。この時採用した涙香苦心の20世紀式活字は

わが国新聞史に異彩を放つ「萬朝報」は1892(明治25)年11月1日創刊。高知県生まれの黒岩涙香(本名、周六)が念願の新聞を30歳で発行した日です。

本邦初めての扁平活字でした。1900(同33)年2月3日、題字の上に「趣味と実益との無盡蔵」の文字が刷り込まれます。

探偵小説では涙香、論文では香骨居士、半士半商人、齒月生、火舟漁夫、古慨處士などの名前を使い分けた新聞人は、競技かるた大会を開催したほか、狂詩では楽在、連珠(五目並べ)では高山凹庵、俚謡正調(都々逸)では正調庵と名乗りました。

涙香が59歳で没した後、萬朝報は次第に衰微していきます。絶筆となった一首「磯の鮑に望みを問へば私しや真珠を孕みたい」は病床での作品でした。墓所は横浜市鶴見区の総持寺にあります。

当館には2002年1月、早稲田大学



萬朝報(1893(明治26)年4月13日付)

図書館から大量の「萬朝報」(明治30年~大正9年。欠号を含む)が寄贈されました。